836
209
3

蓼草年録

堤蟻叢書

九

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

堤蟻叢書

嘉永癸丑六月
七月

九

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

一御門伺寫

此度三方面船後来ニ付ニ而一条辺ハ節之所ニ而ハ砲宗ニ於ら

ら 伺付ハ此度ハ如何ニ寄附御案之義ニ付 亡祖父遂義 今年来

苦心仕候来ふ如てこ之所手向ニ而ハ此火急無作ニ而ハ行届ハ

無在万一之事ハ節ハ此志者奮人数ニ而ハ無勢ニ而ハ居ニ而ハ無勢ニ

命出精仕度様ニ之ニ而ハ此度ハ前条之所次第ニ付而ハ此ニ而ハ行届

相意之所用向ら 伺付ニ而下ハ御仕候ニ而ハ大砲之義ハ為ニ

火薬をも所扱ハ為ニ付ハ来建辺ハ場所ニ而ハ右所扱ニ未来ニ

夫々為ニ于国之ニ而ハ失ひ人次第ニ也もり一事ニ而ハ人ハ

分離ニ場所ニ而ハ 伺付ハ御 于新度 四ツ人 来辺ハ節ハ先ニ而

高野藏書
正 9.5.27 求 藏

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

那川先頃大切之虎口ニも一の者御乱跡ニ相手戦家ニ御厨山
遠陪御示ニ 伝付ニ而御事ニ付ク如 于迎場家庶ニ而居ニ而
同人人数を以固ニ而ニも犯可ニ而固 場所も一の者御乱ニ而
同ニ右遠陪御示ニ而此節ニ 伝付ニ而下ニ而 伝受ニ而ニ付ク大夫ニ
都合能ニ自能も仕ニ而家一ニ而ハ少人数ニ而一ニ而力ニ限陪御示
仕ニ祖父生家ニ風志をも相連ニ而度ニ而此段ニ而ニ生新人
以上

六月十日　　藤名

當十日夕ニ御新伊勢ニ相ニ而ニ而ニ所ニ呼出ニ而左ニ通ニ書面ニ
ニ 伝授ニ候ニ来

暨ニ家次第人数出張ニ 伝付ニ一の者ニ御ニ
節場家ニ而ニ而も一の者ニ連ニ
右ハ御並ニ而ニ而ニ而ニ而ニ又ニ而ハ伝承不回ト云

江戸府

海岸防禦所人數行列帳

嘉永六年癸丑六月

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

御鞍貝桶り

浅黄上人　宮崎某

四條三位隆術　右之

持筒上人　坊城修理

持筒上人

馬下　持人役上人

二條殿桃折　お人上人兼

口取上人　右之

口取上人

御士大将　上堂上人　門跡上人同

女嫁上人　右之

御士大将

今泉長上人

青侍上人　四條三位隆術　右之

下役上人

上医師

大間方　上堂上人

車屋
百目出筒
大筒役壱人
大筒役壱人
大筒役壱人
大筒役壱人
大筒役壱人
十二斤
カノン一挺
拾人拾五人
三十匁
十五梅
ラレデ
カノン一挺
ホウイツスル一挺
二十梅
ホウイツスル一挺
二十梅
モリチウル一挺
拾人四人
偽田嵩吉
出浦恩吉
中俣一平
原米七郎

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

一 六月十四日朝和延々十日附之事書

物ニ夜早ニアレバ三宮玉船騒並ニ高麗ホ東宇中大院ニ於武器等
持運ひ宮殿並ニ其外ニ於往ニアレバ和平越前度ニ於兵刑各度和メ
羽田辺ニ於事輪辺並ニ後施洲ホ近ニ内園場ヘ内倍ニ於ニ賓郷殿紀
州尾州ニ於高家ニ内園ニ於ニ許ニ内ニ倍ニ不数ヶ所ニ内倍ニ見
ニアレバ一時夜ニ内輝出ニ内御ニ於ニ又々一夫ハ代洲ニ内岸火消
屋敷ニ内中陸ニ於合ニ内ニ内時ニ内園場ヘ内倍有ニ之ニ内手
配ニ内一日合ハ〳〵と待ニ所ニ於ニ御ニ申ニ

一 七八日中ニ上々通和ニ於西洋砲大院ニ於ニ仰付雑有ニ等
心席内ニ於能ニアレバ其ニ也雑出ニ於ニ内ニ木侍ニ在ニ内ニ和和

今報ニ云 伊付て有ニ申ニハ存付ニ事彼是大ニ不足具ニ聞
たて僕ニ知人ニ何とも此事更ニ不来ニ報ニハ仕方ニ得ニ此
一公義ニ而ハ何報ニも穏ニ而ニ此有報ニ事ニ事ニ其人差
場長 故し 閣下ニ 稲手次第ニ上陸 故し 此差僕ニ 市改四
田右ホ を出し也 拒ニ報ニ義有ニ云て 公義ニ此首尾ニ
其角此程 笑河中ニ 蒸気船 乗入ニ 郎川 戦ニ 陸尾ニ
中国船ニ 進見ニ 田右ニ 陸上ニ此首尾ニも 陸ニ 出て 差根
頼ニ 有ニハ 差僕 告ニ 人ニ 来 投いたし 此報ニ而 陸合を 落ニ
其ニ 田 ニ 此 子ニ 乗ニ 有ニ 何ニ 其又 其ニ 変 次第
ニ 申 異
上ニ 申ニ 十日

一 同記 抄写

実人ニ 此事ニ 而 実 前 浦 ニ 日 ニ 井ニ 人 陸 大 印 指 南 ニ 叙 寿 ニ 伊 付
石見 様ニ 段 名 有ニ 為 領 而 ニ 有ニ 七 ニ 夕 刻 出 立
八日 男 子 ニ 馬 場 ニ 茂 八 印 を 有 ニ 其 ニ 而 用 ニ 浦 ニ 返 見 ニ 伊 付 出 立
一 当 男 実 人 浦 ニ 井 伊 様 ニ 差 僕 ニ 上 陸 大 砲 を 見 ニ 笑 ニ 田 直 様 而
有 様 場 合 ニ 乗 船 也 矣 ニ 二 三 ノ 近 ニ 田 ニ 有 ニ 其 ニ 先 ニ 為 ニ 残 金 ニ 寄 ニ 浦 ニ 迎
十 日 指 手 僕 ニ 様 ニ 有 ニ 致 ニ 已 連 宿 ニ 厳 ニ 此 ニ 結 ニ 来 ニ 不 近 ニ 様
人 様 ニ 付 ニ 有 ニ 致 ハ 千 俵 ニ 先 ニ 先 ニ 川 ニ 揚 ニ 来 ニ 付 為 ニ 出 ニ 了 来
一 長 州 様 ニ 五 十 ホ ニ ト 二 挺 ニ 来 ニ 此 ニ 僕 ニ 有 ニ 付 深 川 ニ 居 ニ 有 ニ 乗 舟 ニ
此 国 場 ニ 此 ニ 乗 ニ 有 ニ 事 ニ 五 百 匁 カ ノ 二 ニ 有 ニ 屋 し

十以下ノ兵卒ヲ以テ
新ニ四個ノ大隊ヲ編成シ
本文ノ通リ
一 仙台鎮台軍艦及ヒ
各大隊ヲ以テ大阪
東海道ヲ
一 左ノ通リ別紙
陸軍卿
宮内卿

陸軍卿 大山巌
陸軍大輔 西郷従道
陸軍少輔 川上操六
陸軍大佐 三浦梧樓
陸軍少佐 曾我祐準
陸軍少佐 三浦梧樓
陸軍大尉 中條一平
陸軍大尉 曾我祐準
陸軍大尉 三浦梧樓

一 右之通被仰出候条
此旨布告候事
軍務官

太政官

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

一吐生徒諸子ニ告ケ
一同先生諸子ニ告ケ
當地ニテ盛宴ヲ張リ
一同先生諸子ニ告ケ
當地ニテ盛宴ヲ張リ

川越宰相殿より被申之けるは彼船に乗込へき大艘ゆへに水に浅深を
測量仕候と見受候処、此度来るは所無、雷同宰相殿も甚怒り而
船計を少指寄て浅深をはかり候得は少しも彼船沖之方へ一里程も船を
引寄候由、又九日には一寄に越川之嘉献之近辺生麦より候大風にて又川
返し之候て一国難計に候、彼国主よりの書簡受取候て浦賀奉行
井戸石見守殿右命を以て当所へ先達被見被申渡候所
に伴ひ諸事に及ひ空しく帰る下しれ方済ませし候得共実に我国にも恥を抱き
こうして難題を申せしもて是は浦賀之番所へ参り申上候寝所とふ者も
これあり此節老若夜中まて相登り浦賀近在之者も出張致し参り候に付
毎度有之此中へ出張致し候、諸方火の用心を火事之如く不絶相守候
彼船を以て両国方へ指寄せ候得は浦賀表へ大砲相放し候に付浦賀之
者共騒立に相成出で候所を待受け候、依て此度之儀は和親之願事也
令して自心得可申一寸も不可油断不容易事ゆへに必何となく案申候也
去程に浦賀へ入騒動に及ひ方々付ては国難之儀と存し候半は其国次
第屋敷へ一の使出合候て付出し候上御国之為に遠く迄小子も罷越候
御用火事装束にて罷出候所屋敷より之御沙汰により
家方も追々屋敷へ参り合候也

一小生も一昨夜夕飯後より築地より出立を待受之而屋敷へ参りて浦賀
より品川沖を眺めて候得共之所見候得は火事にも少々異
候は是又相替る火之見櫓より眺めて是にて明朝よりして又参り

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

フレガット船二艘をくさりそ引ゆりに本國ハ北アメリカ之内カ
ルホルニヤ之人同盟之内ワシントン国王之願之依て右國王之願
書持来候し右同盟之内ワシントンハ二番之國カルホルニヤ々三
十分の國そ近来同盟之力ハ浦賀湊先船いたし不
下曽根拾久里濱ニ町打出張ニ而与力同心ホモ出張ニ右見付ニ夜ニ
下曽根拾早速小船そ乗出し彼本船之側近ニ乗ニ先方ハ
船場ニ出手招きニ候しハ而其気車を持さしにて少々廻しそ也
十分計走りくと止めにク又本之家ニ戻しに手際務る力ハ今夜
多遠接方中嶋三郎助通辞堀居之助同居小船そ乗付直對ニ
及ハ不二前ハ何ク拒に拒之特有之一切何事もふアメ之事ニ出

令ハ相候してアメ之アメ付遠接方与力香山英屋通辞立石
伴手和同道ニ而我ハ浦賀ニ行ニ次度之ニ而ハ船主ニ面会いたし
家書翰先出し度ニ今アメ付此家ハ取次之ニ而家ニ無之ニ長崎表
一廻りハ拒アメ事ニ去年中阿蘭陀ニ詫しハ力ニ無ハ家ニ先所ニ
家ハ無之ニ如右拒之ニ而ハ使ハ中之事ニ不相立自殺ニてもふ
後ハ而ハふ不相当何ニ也ニ此ニ而ハ仕方ニ而ハ今アメ之由
因国王之書翰相書持来ハ以人表へ先出し後翰出ハ後
先出度アメ不ニ此事ハ不相当ニ今ハ今依而香山英屋出
府いたし何ハ不追而御先国ニ至しハ当川夜ハ拒何ニ有
之英屋ニ使ハ其後ニ家ニ船一艘ニ今夜ニ家浦賀ニ押

出し本牧近在ゟ海之浅深測量いたし罷り川越人浦賀ニ而留
而右ニ而夕方ニ相成不取敢右ニ成近在ゟ追付浦賀表ニ而船ニ而総
不残参り候処川越本陣ゟ在所ゟ人浦賀陸地不残斗
離等之焼物量ニ而亦々船之船ニ乗中居候と隔りて
一人行ニ掛り有ル異国船二艘先ニ掛りフレカット二艘　掛り居
異国船大成ル軍艦幅七間計深サ七間計水上三間余と
水底ニ四間も入て居りし大砲を空発いたし又音楽いたし太鼓
吹鳴ニ而之浦賀ニ参候ハ手ニ取る様ニ聞へ候夫ハ焚煙一ツ之
かたち小ニ見へ候のみにて明白ニ相見へ候伝馬小船往来　候え
彦根川越ニ而警固之影多事之夜中提灯ニ而数大造成ニ之

七つ時頃表ニ而浦賀ニ而表騒ゆへ夜ニ入候間有之八日浦賀ハ
奉行所新役井戸石見守様御出ニ而為陣屋堺不久里濱砂場
仮小屋建ニ而船小屋浦賀表ゟ休息所之手当ニ八日ニ異
之通行無難明白ニ相成候処有之可成丈いたし
引返し九日朝六つ時船ニ而奉行所ゟ一番貝二番貝三番貝
之異国之人数繰出し一番ニ浦賀見ル陣羽織相乱白
布之陣巻いたし二行ニ列して続ニハ下曽根様鎧騎之馬上
之陣羽織小袴着用ニ而続ニ通詞壱人ニ而其後与力
ハ二手与力同心二十人彦根井戸石見守様御供之ニ馬下
等之流久里濱へ着途中太鼓并行軍之演手ニハ

彦根川越ニ而人数小船ニ而家来ニ而ハ幕府ゟ出張ニ而警衛之
取計被仰付候ニ付伊豆守殿ゟ加勢之者大人足軽五十人ニ而小屋ヘ御出張
人并御家来ニ而赤備川越御役付之者幕府御役人ハ総條薄ニ而
立退取扱方相成候休息所ハ此處ニ幕ニ而
四方二ツ引之御紋付幕ヲ張廻シ候家ハ只今ニ而有之候仮屋其
三間斗之家床付仮屋桃青ニ而其外天幕ヲ張琉球之畳
備ヘ前後ハ金屏風ヲ廻シ通り道ニハ毛氈敷運取置
迄也應接方御通辞小船ニ而乗出シ途中迄出ル先方ゟも
兼而約束之通船乗出シ異船二艘近寄り此方小船二艘
漕付乗込相成有之候ニ付ニ而船ハフレカット二艘ニ而候上

陸之人数小船ニ而本船ヘ乗組候此方之船二艘ハ先之
立波小舟ニ付添之岸之御船ニ而大砲六挺宛
致候先ハ岸之上陸之人数凡四百人程横
笛太鼓多く楽器有之候而夫ゟ小屋
ニ繰込候夫ゟ先ニ立王之書翰箱之入赤き巾之ことき物を
掛けて両ニ抱ヘ先ニ立也船主副使続て二千人計ニ而小
屋之内ヘ入候人ハ左右ニ立並ヒ由様二
居有之対座床机ニ掛り応接方通辞
取扱候ニ而封有之
此内ヘ二ツ運取退

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

松平下総守様御家来浦賀ゟ申来候写

前略申上候去ル三日八ツ時頃アメリカ共和政治軍船四艘内蒸気船二艘
ニ而迅速ニ浦賀湊江乗入候ニ付四艘共ニ船繋リ浦賀之人初四家様御固メ被成
其外御奉行様方ニ而迄応接ニ及候所書中ニ一通之事ニ而
之仕合ニ而日本ニ江アメリカ国王ゟ使節ニ而書翰差出候事
ニ而相模ニ而御請取相成候由ニ付ハ出帆も致候得共家中之者共承知不致候ニ而
既ニ此度限り浦賀ニ而御受取ニ成候而相州久里浜ニ陣屋出来之由
浦賀奉行ゟ右之内戸田氏并様ゟ被致候由伊勢守様ゟ浦賀奉行戸田様へ被仰
家付右之方井伊様ゟ被致陸地固ゟ右之方大和守様ゟ被致陸
地固メ右之方船備並者様ゟ被致右之船備松平肥後守様ゟ人

数相固八日朝ゟ御家様ゟ被致久里浜ニ御請相済
此方様ゟ千二百人余右故陸上江御達ニ付其段ゟ其余人数余程
ニ必死ニ相働ケ候ニ付候而浦賀之久里浜之者迄其外家中之者
御陸ニ相運ヒ老若男女之退散混雑之儀ニ候得共
私共者右之節御用向ニ而殊之外急ニ付平常ニ相成候
之存居候得共右之次第
四家様ニ而御用勢ニ而御備ハ夜の内引払候由ニ御座候然処蒸気船二艘
湊ニ十ヶ所ニ而夜通ニ小船十五艘ニ而夜中三里ほと沖へ人上陸致し
測量之様子ニ候ヘ共見張候処此備ニ而東西南北ニ行通り
此節者船ニ而御手配ニ付蒸気大筒を打ツ、杯ニ而御座候

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

味無之宮船退帆と喃申り数十万之寄宮船かしも眠りかゝ
とみ切り能ハ此度ハ中ニ心底ニ心住ハ無言ニ言ハ後来ニ後多
くるに対流史ハ註進鉦鼓ニ交ニ出張て狀坂之下海上ニ出張ス
同七ると宮船蔵量之ハ仕ニ而海上深ハ上ニ掛ん其事船ハ付数
度宮船をふ分法方ニ其義宮船蔵衛ハ以又ハ其人ハ法砲
其を日本人之強弱を其量ニ十分禅之心配宮船之蔵量ハ
此度ハ同船ニ至ニ其ニ生鶴久里濱ニ而ハ引交ハ用ハ付八ヶ夜海賀
を出帆右ニ付蔵衛ハ仕ニ而ハ宮船蔵量ニ至ニ及合戦ハ支度ニ而ハ仕
心死之覚悟ニ此ニ而ハ此事ハ其ニ其ニ心付ハ此之者引連し
蔵衛其ニ今日と七ると寄一日も眠り寄事ハ仕息無之

深夜ハ其ニ至ニ船中ニて九ると寄太ニ天ニ八半時以上照付られ六十度
も同ニ而ハ寄ハ思ハ氣を之ニ其ニ誠ニ日本ニ而ハ誠ニ日本ニ而ハ誠ニ
氣を引之先ニ此用ニ其ニ如ニ氣の原蓋氣船退帆ハ反寄ハ
迅速ニ其ニ大近海ニ其ニ付ハ付必死之急ニ及ニ其ニ金沢辺と蔵衛
として其戦又此用ニ而十日小糸ニ其ニ而ハ即日洲崎ニ其ニ
衛其ニ十万之寄ニ其ニ陣仕ハ寄ハ安心ニ而ハ併ニ以ニ
痛し心病ニ而ハ大家人ハ此ニ其ニ右ニ者氣ニ而ハ其ニ
而ハ四十之人陣中ニ而死ニ其ニ方ニ仕合ニ而ハ其ニ
恐大ニ此時ニ而ハ其ニ此ニ

二月十四

富山法華頼

平能浪江

国学の道ども振り仰ぎて

十二夜まゐりつる翁返礼示ひ叫び仰ぎ

迎ふ事務所にくつろぎ居る仲間かの役所手前

火の気なき五位侍ども皆ふるへ居る

人の数一名おきに集会場手八ツ山橋より美作

桃灯ともしつゝ多く御殿山より東川めぐりの

手越家寺へ到着ひ叫びつゝ

南原ふるまひ事務引き続き

直ぐ分同系ふるまひ

言ふ事ゆゑ川端右側通りふるまひ

未曾ふるまひ五百ケ所ふるまひ

りふるまひ大急ぎふるまひ

ふるまひ一度て手ゆゑ

ふまひる歌ふ。明十八日ふるまひ

被ふくふる信ふまひ

ておテニ次ふるまひ

不当ふるまひ

茶狐狗ふて

ふまひ

ふまひ

十二天ふるまひ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

お話者日家近辺迄市分へ出当向之内根岸村とか家ハ拝銭
海岸ニ後ノ家ニ柴沖とし家ニ当りし習比ハ呉国船載り居ハ
九ツ時比帆上ケ少時様子尤ニ後小菜辺山銭仕ト御呉国船武艘
ハ高麗ニ居ハ居ニ候ハ深船ニ堪家ハ走り水とし堪家ニ出
ハ武艘ハ浦賀辺ハ乗りやゝ深りアト金沢浦辺夏嶋西之方
畑中美丹後守人数お話善張武ケ船右之内以前五本馬
帯ハ走ハ数様四十分後絶参挺ニ十張陣鐘太鼓番船八艘
出居アト金沢ハ夜ハ十日定八年時ニ二十船と唱ハ位之小船四艘
柄子形之艘と乗船ニ美人ハ潜四ツ所家とし家ハ上陸井ニ集ニ
堪家ハ寄水汲上ケ壷二ツト汲込右ハ拝ツ吾ハ内日家子供之一

並ひ居ハ所ハ小麦ニ様ハ代ハ何者ニ下品之菓子様之物往来ハ何者ニ
し異ハ様子ニ居ハ人ニ付子供之事拾ひ出と唱ハ後人ハ子供ハ之制止ハ付子
供統見ひ出と美人ハ心ニ不應ハ裁腰ハ小間取出し空間ハ放つて
各舟ニ乗りアト其如子供船の行道ハ手招ハ得ハ又ニ立ニ居ハ
様子ハ付所ニ居ハ一流遂ニ居ハ付美国船ハ和船一帰りアト
但身丈五尺七八寸位ハ白き方眼中人ハ見ハ赤き方ニ印船
乗船ハ一艘ニ六七人位ニ中ハ人ハ白き間袍を先ニ紐付紐袍
を持ち船ハ出りハ印も先ニ出り場帆之印を設ハ乗船ハ出ニ居ハ赤
間袍ニ接之通ニ居ニ印し居ハ天美帯日除ハ他各人何しも
ニ拝ハ居ハ居ニ也

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

若し
東都を淺瀬に当る大船通り難成ものなり
夢
小船を乃津に仕候
若し
王城を絶し候上陸仕不申候
夢
上陸を不致手を出し海上に為有之仕候
右官若し後ハ神奈川・横浜に至候ハ必ず右官若し御
不御座候、軍演に新規仮崖出来候歟設候ハ而毛氈を敷
夫半分ハ庶上下之上に陳列織庶机其人共曲禄を与
候離座通個所引
右之陳人数四百八十人内訳千人程
四百人黒紋色青黒色
残人少性能吉七戸位

于命所ハ之長股筒袍之上ニヒツ相之袖を志所ハ大小之下皆ち
高帽子を被成所ハ是を穿り其股ハ何も皆筒袍所ハ黒羅紗筒袍所ハ内各洋仕様仕様絶所ハ是を筒袍所ハ内各洋仕様絶所ハ
絶所ハ白きハ黒羅紗筒袍所ハ内各洋仕様絶所ハ
接絶腰を付ル由何も燈籠等ハ用ハ上大を用ひ天ハ夏大を
之家業を味イハ由所ハ之者又里演上陸之御無之候国有仕所ハ
接之待る先国仕下人者接待之ハ何くとも下ハ是又美事之
俄先国五之所ハ何くしとも一流美事ノ内ニ力ハ内右ノハ何く
とも之ハ日本之言語を不知候千代、千万言葉ふ
市伝ハ是ハ北アメリカノ由船数四艘ハ千余組三千人乗之由
船ノ形五十万之方ハ日本ノ方御船之造り小也其所形三年

中ハ石塔之形ニ而多ク無之ニ而帆ノ上ハ煙ヲ以山ニ吹出し
船一向ニ入ヘ来る儀も無之且船のともの方ニ船車頭の物無之
帆無之人者用ニ手ニ車下ニ当のものハ拭煙草入ニ乾仕也下
不留絶故即中之内一仕也之人四千鯛ハ位之内未ハ船ニ而
乾ニ仕ハ山形書ニ乾之物無之ニ而是人ハ船ノ砂雞ニ乾ニ下
金沢辺場府仕ニ即金沢ニ而能ク堂ニ而自付和ニ十ニ而兵ニ而
堀織部ニ而所住自付長野ニ八ニ即河津之中太ニ即大溪佐ニ
大ニ而小人自付ニ追ニ川横ニ乾鉄ニ之ニ矣アリ
霧見辺之細川能ニ当人ニ殺無武器ニ乾ニ遅ニ以ニ保ニ之ニ人
も西ニ以ニ法場帆ニ而及ニ元ニ伏ニ也
十ノ十四

所住自付 名清ニ在ニ
所人自付 大ノ町

一十三日以前出発御十二日頼ニ
一筆金相ニ遅ニ下ニ矣ニ船 此十二日頼ニ五時ニ遅ニ出
帆ニ付 船ニ出後ニ御用ニ無之ニ下ニ而遅ニ即ニ無之ニ
仰出ニ下ニ得ニ于ニ而ニ恐ニ候ニ
十ノ十三
当時ニ而 取中
一此度急出府ニ付後ニ金
金拾八両 実ニ而十二両ニ而近在並ニ
一人ニ
同前
拾弐両 一月ニ場ニ付ニ其ニ而後ニ而
中沢井之人
東福寺村
世人
菅野村

天前
上海三房ニ

兵代付
三人

雪屋そハ三郎九郎ニ和雪者ノ由七郎ニ有ル故ニ四郎ニ為ル
入れ之上人別ニ定メタルト云
雨云そハ三郎ハ行先有ニしハ軍事ニ在ルニ新兵ハ拵付し
彼あれハ必拵付をハ仕付ニ在ル故ニ在し諸人有ニハ一所ニ云出
行者ニ在し用ヲ有ニし

右風説

一 口上覚

去ル十四日上田町石屋他領ニ買ハ米穀去年ニ取ル表
賣ニ取ル事ニ付ニ仕候ニ下ノ町郎ハ穀物ニ取ル有ニ申候

一 此間領町郎ハ四郎ニ十五日上ニ六千日下人別ニ取ル二千日
ニ上ニ五千日下ニ以下ニ取ル弱ニ取ル申候
一 口戸ニ迴ル米ハ如ニ先ニ此領内ニ的徳ニ而ニ仕付ニ國米ニ先
出ル申候 此ニ付ニ下ニ

丑二月十七日

宝賀八屋ノ

一 上田ニ千五百徳ニ仕付ニ先ニ取ル五百徳ニ去年ニ先ニ出ル如ニ
屋金兵ニ而ニ御屋ニ分ニ有ニ也話ニ彼ニ申候 先ハ兵ニ遣ル事
一 右ニ用米ニ郎ハ仕付ニ諸屋ニ他ニ申候ニ并ニ取ル五千表ニ申候
後ニ有
ハ戸川多伴列ニ之の味ハ有ニし上ニ出ル人ニ有ニ見ニ申候
陽宋の平米蔵ハ中先ニ上ニ純志ニ也ニ上ニ大ニ分ニ

一人前
六貫三百文
[illegible]
兵粮付
三人

〃三浦
三十五万石
井伊掃部頭
一万余人

武州金沢
一万二千石
米倉丹後守
千余人

同 本牧
五十四万石
細川越中守
二万余人

〃神奈川
六万石
松浦壱岐守
二千五百余人

浦賀
十五万石
松平[illegible]
五千余人

阿[illegible]
二十五万九千石
松平大膳大夫
八千余人

大森羽田
二十二万石
松平越前守
八千余人

芝高輪
十五万石
[illegible]
八千余人

深川
十二万石
松平隠岐守
四千余人

〃一ノ宮
〃一万石
加納備中守
七百余人

〃作倉
一万三千石
阿部駿河守
六百余人

〃大田和
二万石
松平[illegible]守
八百余人

本牧
二万五千石
水野[illegible]守
七百余人

惣勢都合十一万二千九百人余

伊豆韮山
江川太郎左衛門

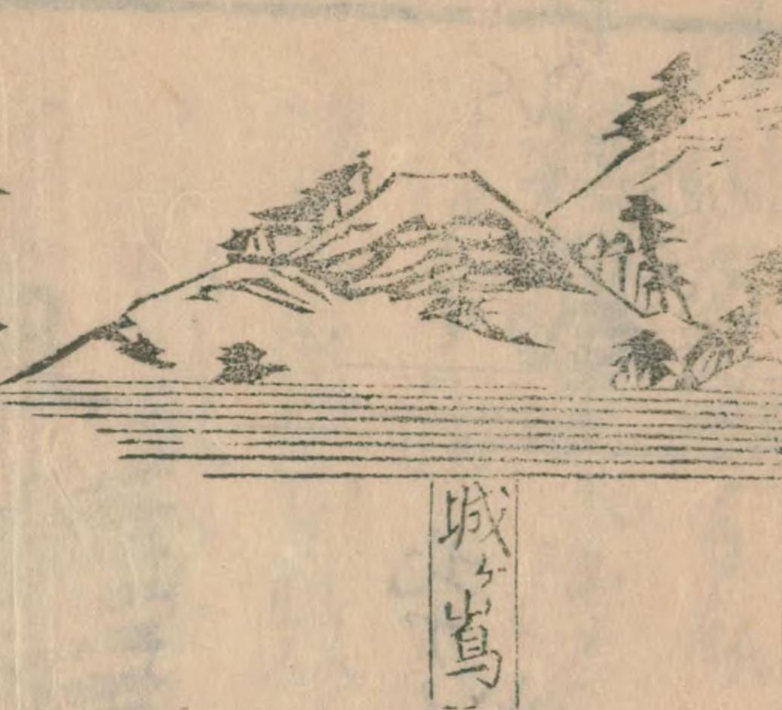
秋[illegible]

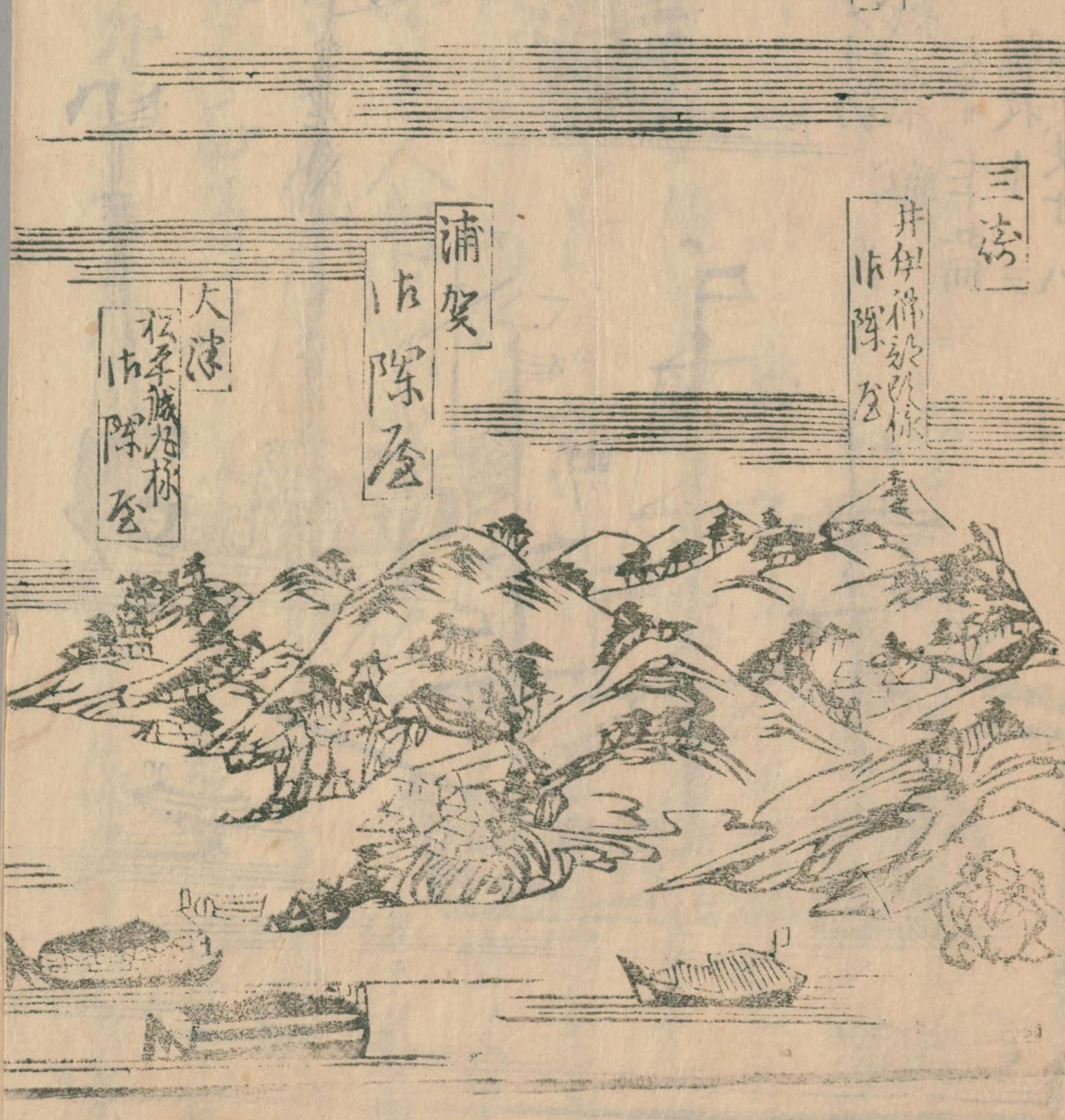
御代官
竹垣三右衛門

林部善太左衛門

御目付
勝田次郎

嘉永六癸丑年
六月三日北アメ
リカ蒸氣船
来ル浦賀表へ来
同月十二日出帆
同所人数惣勢七
万六千人ヨリ余
房総上総江戸湾
[illegible]

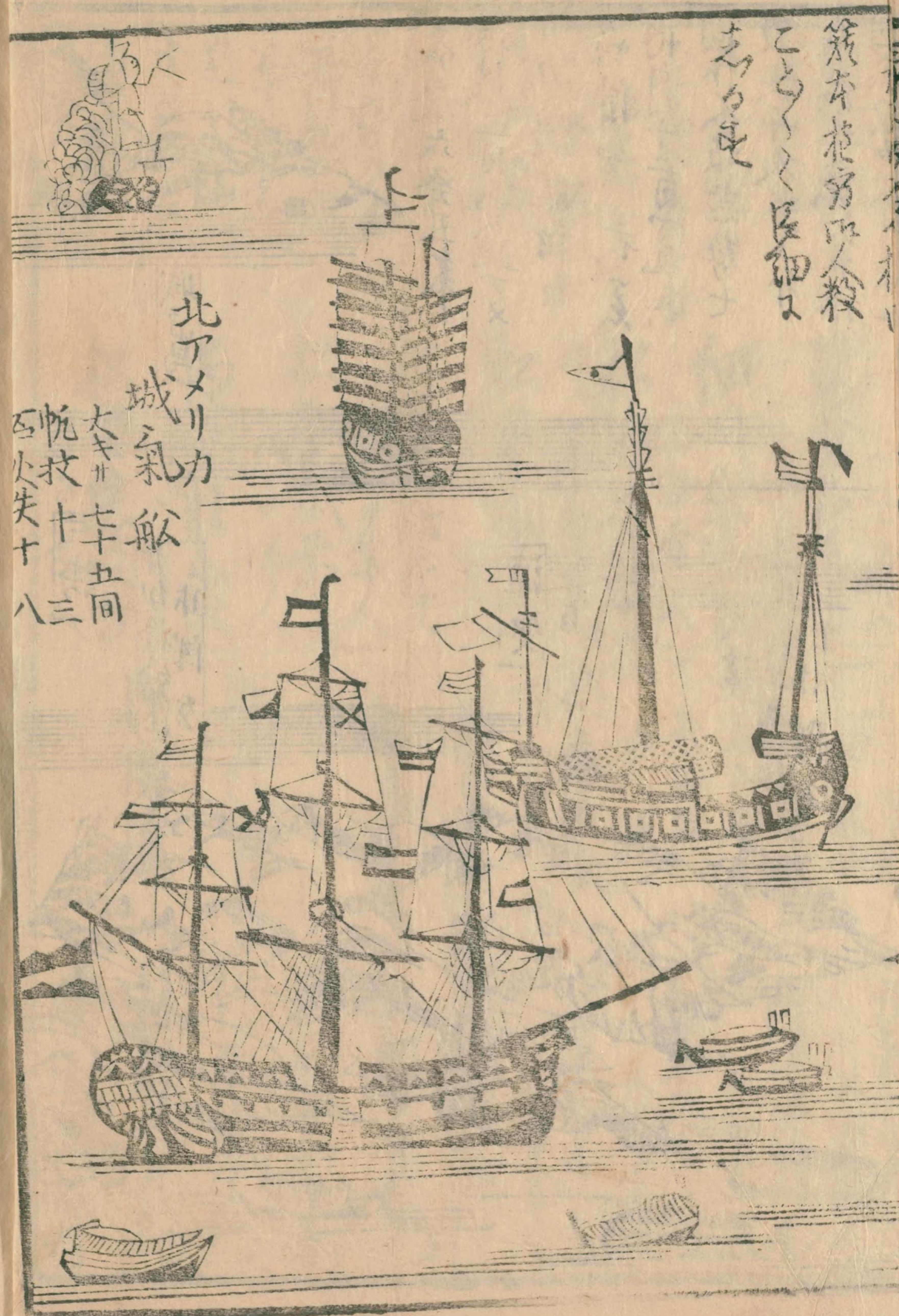




一 同国不足ニ付

一 羽田沖ニ停泊之三ノ蒸気船 [illegible]

[illegible]



[illegible]

一 日在佐之人[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

日本大コンキウ　九棒上野ナシ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

長州侯の数之内第一に得ると諸家の頼ニ而人ニ為ニ而産ニ付既ニ
越前侯杯ニ為ニ其ニ先ニ之内喇人本郎訛世之御ニ遠外無ニ
皇王之害を仕ニ今ニ此産ニ得ニ生ニ此國ニ稟ニ付ニ者ニ何も見
ニ和見之自然家も有ニ之ニ委細ニ志ニ話仕ニ幸蒲田手家ニ於て法庭
愛之人ニ遊びニ為ニ右人馬之美ニ其ニ定吟味ニ兼而鈎矣ニ付傳達
仕候ニ殘夫ニ川崎ニ至リ宮庭ニ立寄リ人馬之美宮合仕ニ
外抱ニ品川ニ得ニ後投ニ此産ニ此人数合ニ為之ニ為ニ家庭ニ此割
付此産ニ得ニ無ニ先ニ其元ニ付て今ニ此産ニ加奈川ニ到リ宮庭ニ
宮合仕ニ為ニ其ニ家ニ得ニ後投ニ此産ニ達ニ申急ニ出ニ付ニ得
ニ火ニ暑中ニ且ニ宿ニ宮合仕ニ此人数之中各ニ仕ニ為ニ御七時

三時暑ニ是仕ニ宮ニ宿ニ之ニ船ニ大氏ニ志ニ達ニ為ニ是ニ大津
近船ニ為ニ可ニ乗ニ我ニ今ニ船ニ倩ニ取ニ不殘ニ用船ニ之ニ後出し
美ニ内ニ然ニ此ニ船ニ事ニ山路ニ至ニ得ニ其ニ雜沢ニ付ニ仕ニ間
何事ニ付ニ以ニ舟ニ之ニ此ニ是ニ船ニ和ニ同所石崎ニ至ニ蒲庭
家内ニ志ニ實ニ者ニ体ニ之ニ　御上ニ為ニ　法之ニ為ニ此産ニ有ニ哉
叮嚀ニ無ニ話仕ニ是ニ之ニ迴ニ御舟子ニ御頼ニ外ニ夜ニ入ニ為ニ寝ニ大
津近後ニ是ニ内ニ使ニ陸地ニ至ニ得ニ道程十三里ニ殊ニ程
ケ谷ニ田舎道ニ為ニ五十丁ニ志ニ至ニ内ニ付ニ為ニ人ニ申請ニ船子ニ之ニ為ニ
主ニ横浦賀表ニ引ニ返ニ雜ニ付ニ是ニ此産ニ為ニ先ニ見ニ角ニ也ニ當ニ且
之ニ為ニ此産ニ付ニ目ニ當ニ也ニ御侍ニ舟ニ為ニ後ニ方ニ一ニ然ニ也ニ御仕

元人兵共其後夜ニ入ル如南風烈發吹ニ而ノ舟ニ乘ル即ち而
頼りハ而帆を揚ル方一ツ然ル能見より出帆仕ル而も吹戻され洋中
ニ漂ル再無往夜中ニ到りハ得ス此風ニ落一ツ之ニ而吹風ニ
帆を揚ル得ス速ニ大津ニ一ツ乗とのゝ彼等ハ素ハ熟練仕
ハ而元兵仕ハ多ニ此所ニ得ス先年彼其分ニ兵ニ乗ル無ク和四通ニ到
然ル本侯ハ一ツ数大勢兵戦法用船ノ付ノ舟ニ乗ル者ハ十五日迄
出ル事ニ而宮屋名ニ於ケル新人右ニ付ノ舟子等ノ気ニ毎西ニ発
ル利益ニ而ハ其ノ多ク付全ク欺きハ無ク詳ニ無ク戦説
仕ハ兵ニ実ニ以無兵ニ非次第ニ而所ニ置ル其ノ和四家出ニ仕様
ニ答ル山路ニ入ル事を不免ハ得ス全深ニ到ハ此等ニ

難明ニ而ハ其ノ夫ハ即ち山ノ後ニ到ハ舟を借ル人ハ得ス
兵ニ同しく法用船ニ後渡兵ハ此ニ下民ハ其人ニ不乗
ハ得ス武家ニ変ニ当暫時待ル得ス而後ニ其家ニ到
休ニ所ハ此漸ニして舟を出し其節五ツ通ニ此所ニ兵ニ大津迄
ハ不後堂ニして横須賀ニ而ハ舟を見ケハ夫ハ山戦ニて大
津ニ到り洋中ニ於ケル得ス既ニ者侍ニ絵ニして三艘ハ其ノ被ル
ニ見又此所ニ堂ニ改を戦術ニ到り兵ニ到り小屋
ニ乗り者を乗ニハ得ス島田者ニ付新付多ク中亭ニ
アルニ其今日新書ニ而ハ得ス早速乗ハ得ス未タ終
以前ニ也一ツ者ニ而ハ付早速ニ到を移し三所余ニ此度ニ仕様者

栗濱より許に兵戦ハ得ス最早お深ハ而三万人は本船に夜ニ
ハ家に以来ハ保来タ所傷之ハ其侭此夜中に造りけるとの事ハ而
十四日に十八日之侍屋を立浦かゝなり戸田伊豆守ハ君ハ
あ人に幕を張旅屯長柄に立并へ続事戦士お固メハ是より
右に方二四日侍幕を海に向へ一文字に于井伊侯所謂
赤旅隊ハ而 仙旅 六本旅ハ勿論長柄陣ハ陣羽織者板皆赤
安に所屋と左に方大和侯是も同しく海に向へ幕を一文字に
張旅屯長柄立並へ砲四十挺長柄十五本戦士六千人程物
政六隊組政三隊士大将一隊戦士ハ皆近ニ為ニ程に銃ハ前
鉄に陣羽織を見ル井伊侯所傷浮ニ居ル所人致大勢ニ而目算ニ

仕候ハ大和侯所傷中程ハ舟ニ而下総侯所傷向侍大ハ船
二艘小船数十艘ニ而 金澤侯所傷 十二艘四本小旅二本ハ色ハ赤緋形タ
或ハ原ニ一方ハ以来ハ得ル遠ニして見へ候ハ
其外諸手の用船寄船数十艘ニ而 告ハ本ハ小旅ニ而 ニ而 井伊侯所人致兵船
ニ多不ニ在家ニ兵船方と詰ハ小旅ニ而と云ハ兵士是ハ雑人ニ多義組
組を分ち以前合事ハ是ハ雑人ニ而味噌梅漬ニ而ハ来ニ合し
居ハ法ニ拵て老ハ得ス上下一様ニ多ニ有ル 是ハ兵船組分ニ多
所席有是を志れ 丹ニ
是者ハ其外ハ米ニ而不慢船中ニ而焼きハ合ニ事 仕ハ四ツ保是ハ
所以此ニ所屋ハ四ツ前ニ鍋所起合ハ左ニ而 川越侯所人致
兵船ニ多ハ何ニ多仕候知ニ兼ハ只所傷詠ニ大電二ツ申又大なる
ある数十所屋ニ是ハ非常ニ非常ニ傷ハ様子ニ所屋ニ 倍又

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

衣を着白き頭巾を被り舟の中程に座り下女傍に扇子を持
其外は多く衫里を牡丹縮めにて衣を着白色にて頭巾を被りかひを持二
行に並居りて命かけ有り右下に傍居る者人石垣の下に到りて又両大勢にて
向ふ官も脱き首をかしけ下に居る者ふ通り官吏へ何ぞも自ら振り此右
何きも顔を洗ひ入船の傍に押し立て誰も衣裳にて乗付け人々供に居ても見て
唄ひ乍ら渡る供者も又此方を見て唄ひ乍ら大声にて其方へ行く

出しに乗り返して追ひ船を寄せ石垣下に乗付かひを止め人
と船中より鳥上砲位の音を度々上け其上人見物居る者共へ向ひ右の方へ問ひ
三人程を空砲にて撃ち然しも又此の人民騒き右へ行き者共も追ひ廻り人家共
戸を閉め多私も華底に乗りて色々物持来りて後甫ひ帰りて

ふ船に乗る者は多く衣服を着る其外家々より来る船にて近辺へ廻りて
立て一本の陸傍る者附止め侍る此所にて船を寄せ帰る側には寄せ乗り人
付三人程献を入れ家に落ち人々其所船に来る者も有りて亦水に
の貝を拾ひ人者も有りて石垣にて立ちて居る者も有りて水を汲み扇子を出
地にて人々手桶に水を持ち行く傍を少し見れは人々手に貝を入れ参して皆く
其家へ争ふ様にて参る人又は内に桶を出し右船は両方の舟中を流れて
金子を以て書き状を投げ中に作り知らせ空に此形は鹿島踊に
太鼓に鉦似たる者を持ち出し水を汲み人に見せ者へ来る者多く扇子を見せ
に立ちて多く人叫びて扇ぎ見て居る傍ら菓子を投る人
皆して皆船に乗りて帰る[illegible]

又ゝ松原へ到り候ニ始めの如く四艘並を以布瑕り居ル有松原ニ暫
待居候処亦ゝ黒船壱艘其以後大船を乗出候ニ付一同ハ乗
出候と直ニ江戸海之方へ乗行未牧之候ニ付見候ハ直ニ金沢
へ参り然所七ッ時山路ニ登り絶頂ニ到り望見候得共羽田之方
迄加奈川之方ゝ参り候ニ付黒船之ハ後ゟ参り候得共此辺迄参
生麦村より角々程ヶ谷ニ至る所之家々暑金川ニ到り候
最早船も不見候ニ付茶屋ニ休息而之義黒船ハ帰り候由ニ付是ゟ従来
平潟田中ニ繋留之異馬早宿罷出候ニ付直ニ国府ニ至り御支度之
諸家同国ニ帰り候ニ付従ニ繋留ニ而候ニ川崎ニ到り茶屋ニ而
承り候ニ付萬船ニ而之処船参り候ニ付進候由ニ御座候

続き當廿八日元ゟ人弐人又同国ニ出立ニ而弐人ニ而参りし処六郎
之儀ハ浦賀船数艘ニ而候ニ武家之内速ニ浦田家ニ而候
當二十六日七ッ時ゟ川崎ニ而候処家相見之候馬引続ニ候由
御座候候處ニ而翌朝ニ而御帰船ニ而ゝ其元ゟ御座候
而宿泊之由申上候処其後御船ニ而候得共右を以申上候ニ而
之則ハ候得者ニ付委細を以申上候　船川崎ニ而引参り
続き弐度目之御国ゟ十三日明方六ッ時頃出帆仕　委細之訳
申上
時下弐見十二日ニ八時頃御座候出帆之十三日暁七時頃罷越
残退帆之訳申上
右四度之申上小一冊ニ綴り候段差上候

六月

馬場為八郎
近藤友吉

一　品川表六月十八日四ツ時頃之事
二相成候ても此之西南之方ニ当り異船相見候ニ付北アメリカ船四
艘渡来所謂蒸気船者其勢迅速ニ而見る間ニ寂々相近く来

乃至者も有之今和人も有之候得共尤も互ニ相争ひ候兼而
居候得共隠慢甚防禦之仕方ニ而御所往来
馬一時ニ攻具可拾ひ道も飛天之如くなるを称ス然不彼
者共平生之振舞ニ而退帆ニ及ひ候得共彼等ニ相任候
居候得共為筆之事夫ニ而是ニ而候今彼等乱暴ニ及ひ候
穏ニ而然ル所新ニ近之由也、品川辺其辺上陸仕候共
異人共ニ而有之我陣其舟を取卸ニ及ひ候其外多く候、
不出公儀之御法も有之由ニ而尤も百余人出張有
之由用意候得共我国をも大ニ嘲り候
済国体をも称し候得共候得共後来ニ而任置候

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

アヽ志第ノ代ニアルヰをおろし四手を屋四リタルハ三ヶ度あるら
松前也此後それハ三意也人ニ出逢る者して九ミ北アメリカ
人私ふ人招る六有し二度彼ノ氷へ乗り破船十ケ丸を救
ひける也よし乗ルハ皆七九人乱を有り力を須ある不足こし
寄ル山田ある右僕を前ハ二人を取任らる也又刀を帯りる
或る時と扱ひて是れよし右刀を帯ル右仏を取りてに近き
一 ケ度浦賀へ之上田後士ハ木刻(?)助をかし僕あるて大船ニ
乗込大砲を扱ひ乗る之有る計し大音人まて手を振り
タルカ孫しおある有りて命かりしと云ハ来る人能ある大兵之
役ハ支ハ仏れむる云よし

一 右之船此云留浦之候此ハ孫子か二新造之留所え也三年経
乗ふ足ら者ハ意ある事え兵ると仕度四十二ヶ所し船を乗大分必り来
人ニ乗組兵よるて甚感心すると
一 アメリカ船人を蒸し蒸気船(上喜撰)大ある者の船の目当し（此八百石を積む事出来候し船と云）
一 蒸気ハ候見之金津へ乗入る金津ノ口を一廻り廻り米屋丹後屋之壁
ニ室衣ハ三釜あれとし夫か上陸水松防(?)へ出て家中見物致候ハ両外ハ注文
ニ入ハ呉ハ腰る不菓子振る物を出し小やと手拍子呼ハ呉是れ有ル不出之ハ
茶籠して男乳中を帯大人え招入中ちしあ吾茶漬出る者之入命そし文
両様ハ行てハ果子菓子を松茸ル肉や利松茸着つら味をろく喬玄(?)
新之似る焼饅之根ニ出しきまて名ハ粕之焼てえハ的る米の如香ありし
小麦粉しパンニまる沈菓子存てまし

一 国書諸藩ニ而彼ハ五人ニ付ハ五人ニ付ハ[illegible]
[illegible]

一 [illegible]

一 細川ニ而[illegible]

一 仙台州[illegible]
[illegible]

七月三日

[illegible]

一 [illegible]

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 細川之備ニて三寸程ニ而巳ハ十二発千斤之玉ニ而依而右ニ指南多く而三尺余之
人を乗り一同ニ由岸へ押出し候處日艮十五ケ所近寄り處ハ三ノ手
人数之当分ニ有之を待居候處ニ有之候ニ無之と云細川之手
人数二千八百と申云細川も元自ら人数出張ハ大筒ニ而浮人も他
之有之しと云
一 長州ハ以前ニ大砲二門発し其前を払ひ候ニ付少ニ
ニ而わつか二千人計之鉄砲ニ而後ハ直ニ居ノ後始末致し候
[illegible]
一 殿下之火矢ニ用ひ其一柳原等二兵之備之処鉄砲[illegible]長州へ備
[illegible]大砲[illegible]
[illegible]
一 柳原之五十艘ニ而破三門之
[illegible]柳原之近寄り[illegible]
[illegible]
一 公辺之ハ備[illegible]富[illegible]水[illegible]

戸川之兵船を[illegible]水之[illegible]押渡り[illegible]御神楽ハ天
陣を一ヶ所[illegible]殿下ハ大船之[illegible]御座候[illegible]
或ハ一万金を以軍艦を一艘ニ償ひ十万金を以大砲を[illegible]
船両門ニ大砲を備[illegible]近寄し備ハ一の[illegible]
一 松平左兵衛 [illegible]
二十艘[illegible]
一 那山之[illegible]八[illegible]之人[illegible]一[illegible]と云
一 仙台之[illegible]
[illegible]大[illegible]或云[illegible]二千人或五十人
[illegible]
[illegible]二十ヶ年[illegible]
[illegible]
一 加州[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 伊勢守殿御後

法月付し

水之筋中納言殿

波岸防御示筋之事多付 法用も有て可以来暫て

内陽口稲々も出来之 球二ツ手ハ法程出後

之所ニ付表はる通りニ而度二年川口分法参之

球内風呂屋口分 法通ニ而方法和不ん法通

右之通水戸殿筋中納言殿ハ一のきくして

右之通右達下ニ而之のきくして

十月二日 十一百字

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

836
209
3

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3